

1 年	算数	「かたちあそび」 5 時間	概 要	学習環境、学習過程 学習ナビ、振り返り	適 ○
手 立 て	・ 5 つの体験 「つみきコーナー」「タワーコーナー」「こ ろころコーナー」「かたちあてコーナー」 「うつしえコーナー」の 5 つのコーナーを 設け、順番を選択しながら体験する中で、 立体図形の機能や特徴を捉えられるように した。 ・ 学習過程の工夫 自分の学習のペースや興味に合わせられる よう、自分が選んだ活動に取り組める時間 を十分に確保した。第 1 時は一斉授業で今 後の学習のオリエンテーション、第 2～4 時では 4 つの活動の順番や費やす時間を、 児童自身が選択できるようにした。 ・ 振り返りの経験の確保 自分の学習を自分でとらえる力を育成する 第 1 歩として、「学習ナビ」に自分の学び を振り返ることができるようにした。学習 内容については文で書き、学び方（主体 性・協働性の 2 点）については顔のマーク に丸を付ける形式にし、意識付けをした。 2 組に先行研究してもらうことで、学習ナ ビの形式を、より分かりやすく変更するこ とができた。		児 童 の 様 子	・ 自分からすすんで活動しようとする児童が 多かった。特に、普段算数に苦手意識を持 っている児童も、楽しみながら取り組むこ とができていた。 ・ 1 年生の発達段階から、たくさんの場所が あっても自分で気付ける範囲が限られてし まい、他の場所に行かない児童もかなり見 受けられた。 ・ 支援の必要な児童にとっては、最初に説明 はされているものの、活動自体の把握がで きていないために、なんとなくやっている だけで、知識を獲得することにつながって いない様子が伺えた。 ・ 語彙が少なく、体験の中で気付いたことを 言語化できないため、発言や振り返りをチ ェックしても知識を十分獲得できていない 児童がいた。また、立体を初めて取り扱う 単元だったことと、コーナーを回る順序や 時間が自由だったことから、児童の経験値 の差が大きく影響しているようだった。	
成 果	・ 一部を「単元内自由進度学習」にしてみた ことで、算数の苦手意識がある児童も、友 達と一緒に回り、楽しみながら学習するこ とができた。 ・ 教員側の学習のイメージが広がった。（十分 に活動できるように提示する可能性のある ものはたくさん準備しておくこと、活動場 所を十分確保すること、児童の見取りの大 切さ…等） ・ 特に、この学習形態だと、振り返りの時間 が非常に大切だと感じた。言語化、一般化 するために、個別、全体のどちらも必要不 可欠である。		課 題	・ 担任が学習ナビで各自の進捗状況は毎時間 把握してはいたが、1 年生の発達段階的に 個別の声掛けで活動を促しきれない。 ・ 各自違う活動をする場合、学びの土台（体 験や言語）がないと、児童の学び合いが不 十分になることが分かった。 ・ 単元の内容もそうだが、経験値や発達段階 にも合わせて学習形態を考えることが必要 だった。今回は、一部を「単元内自由進度 学習」にしてみたが、その中でも「この時 間は必ず○○コーナーは体験すること。」な ど、教師側が指定し、その時間の終わりに 全体共有するなどしながらすすめるとより 効果的だったかと思う。	

